

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼、昼礼時に理念の唱和を行い、意識して業務を遂行するよう努めている。	「共に生活できる家づくり」という理念をホールや事務所に掲示している。開設して3年が経過し理念の見直しを検討したが、職員で話し合った結果今の理念を継続することになった。全職員が理念を実践につなげることができるよう、法人理念・事業所理念を毎日唱和し、職員は介護する側でなく同居している家族のように利用者と接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に2回の防災訓練には地域の方々も参加いただき、協力して頂いている。又、年4回発行の広報紙で行事ボランティア等の呼びかけを行っている。	併設事業所と合同で納涼祭やささぎ祭りを開催している。法人のこどもクリニックにも案内を置くなど広報に力を入れ、大勢の地域の方に来てもらっている。また利用者が縫った雑巾を幼稚園に寄付したり、お遊戯会のリハーサルを見学させてもらった。傾聴ボランティアなどの受け入れ、日常的にも散歩や近所の店へ買い物に行くなど地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の診療所や支援センター、訪問看護ステーション、併設の小規模多機能型居宅介護と共に、地域の方からの福祉相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実態や取り組みを報告し、出席者からの意見を管理部会議や部署会議にて分析し、サービス向上につなげている。	市職員・地域包括職員・地域代表・看護師・利用者・家族などが参加し併設事業所と合同で開催している。写真入りの資料で活動報告を行ない、意見交換することでサービスに活かしている。アドバイスを活かし、誤薬防止のための薬ワゴンを作成した。また地域の方にもっと知ってもらう必要があるという意見があり、アピール紙を作成して一戸一戸訪問し配布・説明させてもらったことで問い合わせや見学が増えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営体制等、市の担当者や地域包括支援センター職員と連携を取り相談、意見をもらい連携を図っている。	市職員が運営推進会議に参加し、現状を把握している。月に数回は市役所に足を運び、人員体制や運営について相談している。また実地指導でアドバイスを受たり、市の研修に参加している。集団指導では介護保険の制度改正の情報提供を受けるなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修や内部研修で身体拘束について学習や確認を行い、理解を深め日々の援助に活かしている。	法人研修や内部研修で学んでいる。拘束・虐待についての意識調査を行ない、防止を徹底している。言葉による行動制限など身近に起こり得る拘束については、常に話し合い対応を検討している。ホームは2階にあり、階段での転倒の危険など施錠もやむを得ない状況ではあるが、抑圧感のない暮らしを支援するため解錠に向け検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を設け、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。法人独自のマニュアルを整備している。	研修で学んでいる。言葉がけの内容や口調が適切であったか振り返り、何か気になることがあれば1日3回のミーティングの中で改善に向けて話し合っている。管理者は職員のストレスに配慮し、話を良く聞くようにしている。また人員を多めに配置することで、余裕を持って利用者と接するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を実際に活用し、利用者の要望に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の他、ホームでの生活についても丁寧に説明し、納得してもらう努力をし、利用者や家族の立場に立った手続により、相互信頼関係を基盤としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や要望等、話しやすい環境を整備し日々のケアに反映している。家族が意見を言いやすいように外部機関窓口設置の他、玄関に意見箱(にじのはこ)を設置している。	入居者満足度調査を行ない、利用者の意見を引き出す機会を設けている。家族の意見は意見箱の設置や面会時または電話で意見を聞くようにしている。出された意見は、職員と話し合い対応を検討し、家族に伝えている。内容は要望・苦情に関する対応・確認連絡票に記録して共有し、ケアの向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員の提案や意見を聞く会議を開催している。代表者・管理者は月1回の部署会議を通じて提案や意見を運営に反映している。	月1回の部署会議には代表者も出席し、意見を聞いている。職員は一人ひとり意見や提案を持って会議に臨み、活発に意見交換を行なっている。また管理者はいつでも気兼ねなく意見が言えるよう配慮している。提案をもとに勤務時間を変更することで利用者やゆっくり関わる時間を持つことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉関係資格取得に対して手当の支給、賞与の支給、通信教育の費用補助など、やりがいのある職場環境と条件に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内で研修を行っている。又、グループホームで職員がテーマを決めミニ学習会を開いている。申し送り時には、管理者から指導・助言をもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会や市の研修を通じて、他事業所と交流を持ち、各種研修や事例検討等により、サービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、本人や家族の身上を把握すると共に、その思いや不安を受け止め納得のいく説明や事前見学を実施したりし、安心と信頼が得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の意向とホームに望む事等を引き出し、安心と信頼が得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今必要とされるサービスを見極め、緊急性及び本人の背景を考慮し、他事業所と連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりとした環境の中、互いに寄り添い作業を一緒に行ったり共に生活し、行動や会話から学び認め合い感謝している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と寄り添うことを大切にし、本人を支えていくための情報を共有し、協力していただいている。又、年2回家族を行事にお誘いし、本人と一緒に過ごす時間を企画している。	居室担当職員が近況報告を記入したホーム便りを毎月家族に送付している。敬老会や新年会には参加をお願いし、一緒に過ごす時間を設けている。面会に来てくれた時はお茶やお菓子でもてなし、ゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。また家族に電話をかける支援を行ったり、携帯電話でいつでも家族と連絡を取り合っている方もいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が来られた際は、ゆっくり過ごして頂けるように支援している。時に電話をかけたたり、外出時に馴染みの場所へ寄らせて頂いている。	入居時馴染みの人や場について把握している。友人が遊びに来る方も多く、一緒に外出したり、同級会に連れて行ってもらうなど交流を続けている。また自宅や親戚の家の周辺・以前の職場の周辺・先祖のお墓など馴染みのある場所にドライブに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、情報の共有を行いながら、利用者同士の関係の把握に努めている。孤立しがちな利用者には職員との関わりを通して周囲とのコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ移られた方への面会、サービス終了後も関わりが必要と思われる。利用者や家族には、その都度連絡や相談を受ける体制がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を通じて個々の言動や表情等から思いや気持ちを推測すると共に、家族の希望や意向を聞きながら検討している。	職員は日頃から業務中でも利用者としっかりと関わりを持ち話を良く聴くよう心がけて接し、希望や思いの把握に努めている。今年度より利用者満足度調査も新たに実施し、直接的に思い等が言えない方に配慮した取り組みを行なっている。把握した情報は各種記録類に記録して職員間で共有し、出来るだけ実現出来るよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、以前使われていたサービス事業所等から、情報を得て把握に努めている。	入居前に自宅や利用中の施設を訪問して生活環境等を確認すると共に、本人・家族から詳細に情報収集把握している。これまでの介護サービス利用の経過についても前の介護支援専門員や施設等から情報提供を受け、把握している。入居後も回想法を活用したり、訪問者等から伺ったりしながら新たな情報の把握に努めている。得た情報は記録して共有し、サービス向上に活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の、過去の生活歴や趣味等を参考にし、何が必要なのかを考えたり、カンファレンスを行っている。普段の様子を見ながら心身状態、有する力等の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前には、必ず家族、本人、必要な関係者と話し合いの場を設けてそれぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画書を作成している。	ケア実施記録/評価表を活用し介護計画の実施状況を毎日確認し、利用者の状態や課題の把握に努めている。把握した情報を基に3ヶ月毎に評価、6ヶ月毎に総合評価及びケアプラン検討会議を行ない、介護計画の見直しを行っている。計画の見直しに際しては、事前に計画の評価結果を本人・家族に報告し、希望・意見を伺った上でサービス担当者会議を開催し、本人・家族の希望・意見やPT、OT、職員の提案等を反映させ、その方に合った介護計画を作成している。また、変化時や新たな要望が有った際にはその都度、見直しを行ない、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の小さな変化や気付いた事があれば、個別記録に記入を行い職員にも申し送りを行い情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて母体の診療所や法人機関と連携をとり、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じ民生委員やボランティア、消防等に協力を求めたり相談を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望している医療機関で受診している。又、日々の状態を主治医へ伝えたり連絡を取り合っている。	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。協力医である経営母体の生協診療所による24時間対応や月2回往診等の手厚い医療体制により、全員が協力医をかかりつけ医としている。専門医での家族同行の受診の際には医師宛の経過報告書を用意したり、必要に応じて管理者が同行して状態の説明等を行い、情報提供を行っている。協力医や専門医等、各医療機関とは連絡を密に取り、情報を共有して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の診療所と医療連携体制加算契約により、看護師が月4回の訪問による状態確認、24時間体制で気軽に相談ができ支援して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療関係者と情報交換を行い、早期退院に向けた対応に努めている。又、母体の診療所医師に状況を伝え、退院後の対応につて相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の意向を尊重し、家族や関係機関と対応方法を話し合い、その人らしい週末期が迎えられよう情報を共有し支援している。	看取りの対応を行っており、これまでに10例程の看取りを行なった。協力医と連携し看取りに関する体制が整っており、また職員への教育も充実している。重度化した場合や看取りに関する指針が用意されており、契約の段階でホームの方針や対応しうる範囲等を説明し、意向等を伺いながら話し合い、同意を得ている。入居後も療養に関する意向調査を定期的実施し、重度化に備え早期から家族・かかりつけ医・看護師など関係者と話し合い方針を決定・共有し、家族の不安軽減に努めながら手厚い支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員も内容を理解している。心肺蘇生・AED操作の講義及び実技を学び実践力を見につけている。	医療系の施設であり、医療系も含め各種マニュアルが充実しており、マニュアルを基に研修や訓練を定期的実施している。看護師の指導のもと心肺蘇生やAED操作などの救急救命訓練も定期的実施し、緊急時に備えている。また、持病毎の個別の観察ポイントや症状に応じた詳細な対応マニュアルも用意されており、一人ひとりの状態に合わせた備えが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、全職員が避難方法を身につけると共に、地域の方や町内会長からも避難訓練に参加していただき、避難時には協力していただけるように努めている。	年2回、併設事業所と合同で昼夜共に想定した避難訓練を実施している。併設事業所・隣接の老人ホームと連携し、職員の協力体制や互いの施設への避難方法を確認をしながら実践的な避難訓練が行われている。避難訓練に際しては、実施の2か月前から検討し、1か月前に計画を作成して全職員に周知し、実りある訓練となるよう工夫している。地域住民の参加を得ているほか、避難時の協力依頼がしてある等、地域との協力体制を築いている。	地震に対応する事業所独自のマニュアルが用意されておらず、また地震を想定した訓練も行われていない。市の防災計画等も参考にしながら地域や利用者の状態に応じた具体的なマニュアル・避難計画を作成し、また訓練を定期的実施するなど自然災害時に備える取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言動や対応に十分に注意し、互いに指摘しあえる環境作りに努めている。又、内部研修を行い学ぶ機会を設けている。	接遇研修とプライバシー保護研修が年間研修計画に組み込まれており、職員は定期的に学んでいる。接遇に関する内部学習会も実施している。職員は学んだ事に則り、利用者のことを思いやりその人の為に、という気持ちで敬意を持って利用者へ接し、また就業中も職員同士で互いに注意し合い、適切な声掛けや対応の実践に努めている。記録類の保管や記録方法等もプライバシー確保に配慮し適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が自己決定できる場面作りに努め、意思表示が困難な方には、表情の読み取りや本人の雰囲気をキャッチしながら自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを保ちながら、本人の気持ちを尊重し個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族から意向を聞きながら、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士がメニューを決定しているが、季節に合わせたメニューや、お祝い膳等を提供し楽しみなものになるよう努めている。又、職員と共に準備、片付けを行っている。	利用者は食卓の準備や盛り付け、後片付けや食器拭き等、一人ひとりの力に合わせて職員と共にやっている。定期的に行われる調理レクや味噌汁レクでは利用者も職員と共に調理を行ない腕を振るっている。誕生会等の行事時には満足度調査等の結果を反映させ好みのメニューを提供したり、外食の機会も設け、食事を楽しむための工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が毎日の献立を立てており、バランスの取れた食事が提供されている。又、利用者個々の食事形態や量、バランスを考え提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けをし、必要に応じて見守り、介助を行っている。又、就寝前には義歯の洗浄をしている。口腔状態によっては、訪問歯科診療を依頼し、治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄サイクルをチェック表で把握し、状態に合わせた支援について検討し取り組んでいる。	トイレでの排泄を大切にしており、排泄チェック表を活用してパターンを把握し、適時に声をかけトイレ誘導している。一人ひとりの出来る事・出来ない事を把握し過剰介護にならないよう、その人に合わせ必要な事のみ介助し、自立にむけた支援を行っている。紙パンツやパット類については、利用者の気持ちを考えながら職員で使用根拠などを話し合い、排泄の自立に向け、安易な使用は避けるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分摂取や食物繊維、乳製品を含む食品を使う他、その人にあった運動を働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴できるように時間や順番、体調や状況にも柔軟に対応している。	週に2回の入浴を基本としているが、希望があれば回数の変更に対応している。時間帯は午前・午後の希望を聞いて対応している。今年度からは、よりゆとりと入浴してもらえるよう勤務時間を一部変更するなどの工夫を行っている。入浴中は一対一で職員とふれあえる良い機会ととらえ、ゆとりと関わりながら介助するよう心がけている。拒否する方には無理強いせず、順番を変えたり声のかけ方を工夫し、気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々のパターンやその日の状態に合わせて、休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の個人カルテに、内服薬の説明書がファイルされているので職員は、必ず目を通すことになっている為、理解は出来ていると共に服薬の支援と症状の変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで過ごしてこられた生活の中での役割や習慣を大切に、ホームでの生活で可能な事は継続していただいている。又、個々の役割を見出し楽しみや気晴らしの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望、状態を把握の上、施設周辺の散歩や、買い物の同行を行っている。計画的に長距離外出の実施も行っている。(花見、バスハイク等)	日頃から天気良ければ散歩に出かけたり、ドライブに出かけたりしている。今年度からは「散歩月間」を設けたり、利用者の希望による買い物などに対応し、より外出する機会が増えた。普段行けないような場所には、利用者に行きたいところを選んでもらい、花見や紅葉見物、イングリッシュガーデンや「みやじ様」等に出かけ、名物料理やおやつを食べて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして、家族よりお金を預かり、本人の希望や、必要と思われる経費は家族へ連絡し、支出する。毎月の出納については、書面にて家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への電話希望の方には、事務所の電話を使用して頂いたり電話のとりつきも行っている。切手を購入し、手紙を投函する支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下などの壁面には、入居者の方の季節に応じた作品の飾り付けがされ、大きな窓があり採光性も良い。食事時のテレビの音量にも気を配るようにしている。	ホール・廊下の床は落ち着いた色調のクッションフロアであり、利用者の体に優しい作りとなっている。ホールはユニット間の仕切りが外されており、利用者は両ユニットを行き来することができ、また廊下の奥には談話コーナーとして畳のスペースが用意されており、利用者は好きな場所で思い思いに過ごしている。季節感のある装飾物や利用者作品が展示されており、温かい雰囲気づくりがなされている。清掃・消毒は毎日おこなわれ清潔保持されており、光や室温の調節など快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の日当たりのよいスペースにソファを配置したり、畳コーナーなど、独りあるいは、数人で思い思いに過ごせるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物に囲まれ生活できるよう入居時に、本人や家族に馴染みの物品の持ち込みを働きかけている。	本人・家族と相談し、馴染みの家具や装飾品等を持参してもらい、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。ADLの状態に合わせ家具等の配置にも注意を払い、また本人や家族の希望には柔軟に対応し、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の状態に合わせて手摺りが設置されている。又、安全な環境作りを目指し、その都度対応を検討し改善に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				